

この「広報ひこね」は47,800部作成し、1部当たりの単価は7円(1円未満切り捨て)です。ただし、原稿作成・編集などにかかる職員の人件費は含まれていません。

## 連載企画 | 発見彦根の文化財 第6回 | 彦根藩の2つの下屋敷

江戸時代、彦根には表御殿とともに2つの下屋敷がありました。表御殿は彦根藩の公的な仕事や行事などを執り行うとともに、藩主が日常生活を送った所です。現在、彦根城博物館として復元されています。

一方、下屋敷は榎御殿とお浜御殿がありました。榎御殿は玄宮楽々園と呼んでいる所です。榎御殿は、井伊家4代の直興によって、延宝5年(1667)に造営がはじまり、同7年に完成したと伝わっています。以後、代々の隠居地として用いられました。現在は庭園部分を玄宮園、建物部分を楽々園と称しています。

玄宮園の名は、中国の宮廷に付属した庭園を「玄宮」と言ったことから命名されたと考えられています。彦根城を借景とし、満々と水をたたえる池水を中心に、池中の島や入江に架かる9つの橋など、雄大で豊かな情景は大名称園の典型と言えるでしょう。

楽々園は、11代直中の隠居により、最大規模に膨らみました。内堀に面した道路いっぱいまで屋敷が広がり、その規模は現在の10倍近くありました。現在修理中の御書院も直中が建立したものです。直中の14番目の男子であった直弼も、直中の隠居後にこの場所誕生し、17歳まで生活していました。

もう一つの下屋敷であるお浜御殿は、彦根城より少し離れた琵琶湖岸の松原にあります。こちらは建物わがわずかしがなく、あくまで庭園を主体としたいわば離宮でした。琵琶湖の水を利用して水位が変化する汐入式の池を中心に、茶室や馬場などが設けられていました。政務に疲れた藩主が、彦根城から船でやってきて、ここでしばし時を忘れたことでしょう。

現在、2つの下屋敷は、異なる様相を示す大名庭園として、ともに国の名勝に指定されています。

なお、松原下屋敷は、11月14日(土)同30日(月)に特別公開する予定です。

問い合わせ先 園教育委員会文化財課

☎26-5833番、FAX26-5809番、Eメール: bunkazai@mx.hikone.ed.jp



▲琵琶湖の水位と連動して姿を変える「お浜御殿」庭園

### 参加者募集

## 彦根歴史探索ウォーク

彦根市には豊かな文化財が残り、それぞれが個性的で興味深い歴史を刻んでいます。今回、彦根藩の下屋敷である玄宮楽々園と旧彦根藩松原下屋敷(お浜御殿)庭園、織田信長や石田三成といった多くの武将が活躍の場とした佐和山城跡、中山道の宿場町として栄えた鳥居本宿、井伊家歴代藩主とその一族の墓石が連なる井伊家墓所を回るイベントを行います。※小雨決行します。

対象 市内在住、または彦根の歴史や文化に関心のある小学生以上の人

定員 各回50人(先着順)

参加費 無料

参加開始日 10月15日(木)

申込方法 園教育委員会文化財課に電話、ファクスで申し込んでください。また、教育委員会ホームページから申し込むこともできます。ファクス・ホームページで申し込む場合は、住所、電話番号、氏名を書いてください。

問い合わせ先 園教育委員会文化財課 ☎26-5833番、FAX26-5809番、Eメール: bunkazai@mx.hikone.ed.jp

日 時/集合場所	内 容
10月24日(土) 13:30~16:30 桜場駐車場	彦根藩の二つの下屋敷 玄宮園→楽々園(玄関棟→御書院棟)→舟入→旧彦根藩松原下屋敷(お浜御殿)庭園
11月7日(土) 13:30~16:30 赤玉神教丸本舗前 ※駐車場はありません。	佐和山城跡と鳥居本宿 赤玉神教丸本舗→上品寺→本陣跡→道標→切り通し道(彦根道)→佐和山城跡大手
11月14日(土) 13:30~16:30 龍潭寺前観光駐車場	佐和山城跡と井伊家墓所 彦根藩主井伊家墓所(清凉寺)→石田群霊碑→西の丸→本丸→千貫井→龍潭寺山門 ※山道を歩くことができる服装で参加してください。

### おわびと訂正

広報ひこね9月1日号24ページの「楽々園「御書院棟」の解体修理に着手しました」と広報ひこね9月15日号7ページの「楽々園建造物(御書院棟)保存整備工事現場見学会を開催します」について、「井伊直中は、文化10年(1813)5月の退隠」となっていました。正しくは、「文化9年」です。おわびして訂正します。